
恋の結末。

遊樹野原凜之

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋の結末。

【Nコード】

N9136Y

【作者名】

遊樹野原凜之

【あらすじ】

7年間一緒だった夕架と稜哉。

稜哉に恋心なんて抱くはず無いと思っていた夕架は、ある日自分の気持ちに気づいて・・・？

グダグダラブコメデイ！

登場人物（前書き）

幼馴染どうしの、ラブコメディ・・・？な、グダグダな作品です！
主人公も、親友も、全員変人です。

登場人物

登場人物

前川 まえかわ
夕架 ゆうか

主人公。青い四角眼鏡に、黒髪のセミロング。
一見、真面目そうだが、実はめんどくさがりの変人第一号。
オタク。稜哉の事が好き。

小川 おがわ
稜哉 りょうや

夕架の幼馴染。野球部で、丸坊主。顔はいい方。
でも性格ゆえに、モテない。

佐藤 さとう
京 きょう

夕架の親友。絵を描くのが大好きで、将来の夢は漫画家。
髪の毛はショートでボサボサ。常識人(?)で、ツツコミ要員。
で
も時々ボケ。
オタクで、変人第二号。

中里 なかざと
美穂 みほ

夕架の親友。天然で、可愛い子。
黒髪の、肩までのばしたセミロング。
ボケ担当、たまにツツコミ。変人第三号。

島田 しまだ
雅 みやび

夕架の親友。お金大好きで、なんかありえない位変な子。
セミロングで、ボケ要員。
変人第四号。

池原 美沙
いけはら みさ

夕架の親友。ほぼ雅のせいで、変人第五号になっちゃった子。
ガリガリで、夕架にいつもおちよくられて、そのたびに追いかけて
る。

ボケ担当。でも夕架にはツツコミ。

登場人物（後書き）

メインは、だいたいこの6人です。

「初投稿でオリジナル!?」というツツコミは無しでお願いします。
ちなみに、サブキャラもいます!というより、サブキャラが大半です!

まあ、グダグダですが、宜しくお願い致します!

プロローグ

時々、アイツの事を考える。

「おい、生きてる？」

京のその声で、目が覚めた。

「生きてるわいつ！」

すかさず、僕は返事をする。

「ちっ、生きてたのかよ・・・。」

「チョイ待て！残念そうにすんな！」

そう発言したのは、雅だ。

ちよつとゾツとした。

理由は・・・

「食いたかった・・・。」

「人食うなああああああああああああああ！」

人肉を食いたがるから。

もちろん、冗談だ。でも雅が言っとマジっぽくて凄い怖い。

「で、何考えてたの？」

美沙が聞く。

「もやしの精霊に言う義務はな・・・ふがつ！」

「あははははあ？今なんて言ったあ、夕架くん？」

美沙は凄いガリガリだ。なのであだ名は「もやし」「on」「骸骨」つてなってる。

しかし、本人は凄い嫌がつているため、それを言っと・・・

「あつがあああああああああああ！！！！！」

・・・ご想像にお任せします。

変人ライフ。

これが、僕らの日常。

たぶん、雅が一番変わってる。いや、絶対。

僕らは周りの女の子みたいに、オシャレとか、そういうのは（美穂以外）興味ない。

ましてや、恋話なんか、ありえない。

京なんか、自分のこと「俺」って言ってるし。・・・僕もだけど。

だから、恋愛なんて、僕ら（美穂以外）には程遠いと思ってた。

でも、最近・・・

「また、稜哉の事考えてたー？」

「・・・ツ！黙れ！」

僕は、恋をした。

「またまたあー。」

京と美沙がニヤニヤ笑った。

「黙れ！何であのバカの事を俺が考えなきゃならん！」

「とかいって、そのバカを好きなのは何処の誰ですかあー」

僕はです。

でも、皆の前で認めるのは恥ずかしい。

だれだって、そうでしょ？

だから・・・

「とりゃあああああああああああああああ！」

逃げよう。

「え!?(京)」

「普通逃げる！？（雅）」

「待てええええええええええ！（美沙）」

「夕架——！（美穂）」

皆の聲が遠く聞こえ・・・

「どりゃああああああああああああああああ！」

近く聞こえた。

後ろを見ると、美沙が猛スピードで追いかけてきていた。

「待てええええええええええええええええええ！」

「いぎや ああああああああああああああああああああ

!

・・・その後僕がどうなったかは、ご自由にお考え下さい。

言っのを忘れてた。

僕は・
・
・

馬鹿で、ナルシで、はげで、

顔(?)と運動神経だけはいい、

幼馴染が、

好きです。

『認めたあー（^皿^）』
『き、聞くなあああああああああ！！』

プロローグ（後書き）

グダグダでスイマセン・・・

呼んでくれた方、神です。そして、有り難う御座います。

ちなみに、主人公は自分のことを、心の中では「僕」、喋る時は「俺」って言います。

あと、「あがぁ」というのは、沖縄で「痛ぁ」っていう感じですよ。分らなかった方、すいません。（作者が沖縄人なので。）

方向性が全く決まってません！でも、読んでくれると光栄です！宜しく願います。

1・好きな理由

小川稜哉。

僕の、好きな人。
性格は

最悪。 凄い位最悪。 逆に尊敬する。

出しゃばり、ナルシスト、五月蠅い、馬鹿、ウザイし、好きな人が
すぐコロコロ変わる・・・

他にもいろいろ。でもあげたらきりが無いから、この位にしておく
ね。

でも好き。理由？それは・・・
根は優しいから。

『え？』

京達が声を揃えて言った。

「・・・ たった、それだけ？」

美穂が聞いてきた。

「うん、そうだけど？」

え？だめだった？

・・・ いや、正当な理由だよね。

「軽いなあー」

雅が呆れた様に言った。

「優しいからって・・・」

『ねえー。』

全員が雅に賛同した。

どこのオバサンだ、お前ら・・・って、その前に！

「おい！軽いつてどういうことだ！

あのな！7年一緒にいたら分かるけど、あいつすっげえいい奴なんだぞ！？」

そりゃ、ウザイけど、でも正義感と責任感強くて、優しいんだぞ、あいつは！

・・・って・・・」

うにゃああああああああああああああああああ！！！！
なんか僕、凄く恥ずかしいことしてない！？

こいつ等の前で稜哉庇うとか、自殺行為だよ！！

急いで口をつぐんで、京達を見たら・・・

『ニヤニヤニヤニヤニヤニヤニヤニヤニヤニヤニヤニヤニヤン（r

y

・・・遅かった。

「い、今のは忘れる！無かったことにしてくれ！／＼／＼」

「あら～？夕架ちゃん、顔が赤いわよ～？」

雅が茶化した。

自覚してるよ！！

さつきから、顔に熱が集まりっぱなしだ。

「あゝ、じれつたいねえゝ（京）」

「大好きなんですよゝ？（雅）」

「認めなよゝ（美沙）」

「若いつていいわねえゝ（美穂）」

ん？なんかお婆ちゃん混入してないか？

・・・気にした方が負けだ！

というか、それよりも！

「いつ、どこで、誰が『大好き』って言ったああああああああ
あああああああああ！！！！！」

そりゃ大好きですけど！そうですけど！

すると、雅がそれを見て言った。

「言わんと殺すよ？」

雅、笑顔だけどオーラが黒いよ・・・

「・・・ったあよ！」

言うしか、無いか・・・

「俺は、小川稜哉の事が・・・

大好きです・・・っ／／／／」

ああ、さらば愛しの大地よ・・・（キラキラ

『夕架死んだあ！！！！！！！！』

『起きろおおおおおお！！！！！！！！！！』

1 ・好きな理由（後書き）

というわけで、照れ屋な夕架さんの話でした！

なんか、京さんツツコミじゃない・・・

しかも、重要な稜哉さんもまだ出せてない・・・

・・・グダグダですが、次は頑張りたいと思います！

2・気付いた日（前書き）

初、学校が舞台の話です。

（今までずっと京の家でした。）

ちなみに、京・雅・美沙・稜哉は、隣のクラスです。

あと、これは前回の前の日の話です。

2・気付いた日

これは、僕が稜哉への気持ちに気付いた時の話だ。

キーン、コーン、カーン、コーン。

一時限目が始まることを知らせる鐘が鳴った。

「正座！」

隣のクラスで、号令がかかったらしい。

『はい。』

「はい!!」

皆の声が揃う中で、一つだけ、一際でかい声が聞こえた。
うるせえ〜!

絶対、稜哉だ。

あんな声聞こえたら、やる気失せるよ・・・。

「正座！」

お、こつちでも号令がかかった。

「はい。」

そう返事しようとしたら、なぜかさっきの稜哉の声を思い出した。

そして・・・

『はい。』

「はい！！！」

・・・ありゃ？

なんで僕、稜哉級のでかい声、出したんだろ？

・・・さっきの事が妙に気になる。

ここは、乙女の登場だ

「美穂ー。」

「何い〜？」

美穂が、こつちを見ずに応えた。

美穂は僕たちの中では・・・っていうより、クラス1乙女だ。

美穂なら、きつと分かる

「あのさー、さっき隣のクラスの号令が聞こえた時、稜哉の声が聞こえて、凄いやる気失ったんだけど、」

「うん」

味しそうなモノに聞き違えただけ・・・

「だから、恋だつてば！」

・・・。

「ナニソレ、タベモノデスカ。」

「違うよ！」

・・・聞き違いじゃありませんでした。

2 ・気付いた日（後書き）

・・・中途半端な所で終わっちゃいましたね・・・。
一応、これから主人公が気付いていくと思います。

3、
気付いた日。
2

「つて、はあああああああああああああああああああああああああああああああ
あああああああ！」

ありえない、ありえない！！

僕が、稜哉を好きだなんて……

「ありえない！」

そう叫んだ。

「じゃあ、たとえば稜哉が他の女の子と仲良くしてるの見て、どう思う？」

美穂が満面の笑みで聞いてきた。

それは

「俺とも喋ってくれて、思う……。」

思いつき、嫉妬やあああああああああああああ
あああああああん！！

「じゃあ、稜哉が夕架の事無視したら？」

「見てほしい、って思う……」

嫌あああああああああああああああああああああああ
ああああああああ！！

「・・・でしょ？」

美穂がドヤ顔で聞いてきた。

あの後僕は、美穂に質問攻めにされ、出た結果が・・・

「俺、思いつき好きやん、稜哉の事・・・」

ということだった。

今考えてみれば、全部「好き」という気持ちの表れだ。

しかも、この嫉妬(?)やモヤモヤした気持ちは、小学校4年から続いている。

僕は今、小学校6年だ。

と、いうことは。

「2年間、好きやんけ・・・」

我ながら思うが、長い!!

スツゴク長い!!

恋愛小説みたいだね・・・

「うん、嫌だ!」

「何で好きなのに拒否するの!？」

美穂が驚いたように言った。

「それは、嫌だからだよ、美穂!」

「理由になってない!!」

・・・怒られちゃいました

まあ、これが、稜哉への気持ちに気付いた日。

・・・気付かなかった自分、馬鹿だね。

『馬鹿だ』

『黙れ!!』

『自分で言ったんだろっが!』

3、気付いた日。 2（後書き）

ごめんなさい、短いです・・・。

グダグダですが、感想などがありましたら、宜しくお願い致します。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9136y/>

恋の結末。

2011年11月30日20時53分発行